

メキシコ・レオンのサソリ山 2,092m

古谷眞之助

メキシコ赴任時に住んでいた街・レオン市は、メキシコシティの北西約 300km に位置するグアナフアト州に属す比較的新しい街で、人口は約 100 万人。州都グアナフアト市がもともと銀山で栄えた街のため山の中にあるのに対し、レオン市は大平原の中につくられている。市の北西にこの山はあり、市のどこからでもよく見えた。結局正式名は知らずじまいになってしまったが、この街に住む日本人(と言っても我々の関係者だけだが)は、この山の麓一帯ではしばしばサソリが出ることから「サソリ山」と呼んでいた。事実、定期的に駆除はしていても、麓にあった友人宅では年に2.3回はサソリ事件が発生した。私はそれが怖くて、同じ麓でも11階建のマンションの7階に住んでいた。そのマンションの居間の窓枠一杯にこの山は見渡せた。部屋から双眼鏡で覗いてルートをかまけておいたので、天気の良い、ある朝登ってみた。



レオン市の中心街の背後に、小高い丘とでも言うべき山がある。標高は2,000mを越えているが、もともとレオン市の標高自体が1,800mを越えているから、感じとしては小山である。その山に今朝登った。市民に愛されている山で、山頂まで車道が伸びていて日曜日にはランニングで登る人も多いと聞いていた。もちろん、そのルートはとらずに直登コースを取る。かつて色々な山に登ったから足には自信を持っている。しかし、最近の運動不足で、のっけから少し息が切れた。自宅を出たのは7時過ぎ。山頂についたのは、ほぼ1時間後の8時だった。山登り現役の頃は1時間で300m以上の標高差を登っていたが、今はそうも行かないのがはっきり知れた。恐らく標高差は250m程度ではないだろうか。



(この山は絵になる山で何度となく描いている。これはパロテ湖畔から)

この山には以前一度同僚と車道を登ったことがある。山頂には教会があり、7階の自宅の大きな窓から視野一杯に見え、特に夜には教会正面にイルミネーションで十字架が大きく浮き上がって見える。また、平坦な市街でここだけが丘になっているため、頂上には各種のアンテナ塔が、場違いなくらいに林立している。教会はまあ良いとしても、このアンテナ群は何とも興醒めなのだが、これは我慢しなくてはならない。

今回は少しルートを変えて登るつもりだった。それで、一年前に購入した双眼鏡を使って自宅の窓からじっくり偵察した。気分はエベレストのイエローバンドを攻める登山隊長、と言うのももちろん大袈裟なのだが、久しぶりにわくわくした。山頂付近には二つの鞍部があり、どうやらそこに到るルートがあると睨んだ。最後は少し岩棚を攀じ登ることになるだろうが、間違いなくルートはあると確信した。山頂まではオフロードタイプの車なら登れなくはない道があるのだが、多くの人が運動を兼ねてそこを駆け登るのを見ていたから、違うルートを取りたかったのである。



この辺りだな、と思うところに予測通り踏み分け道があり、迷わずその道に入った。しばらくすると、早くも幾分か崖状になっているところに着き、そこで日の出を待った。双眼鏡を取り出して、大きな樹の辺りを覗く。意外にも小鳥がうるさいほどに囀っており、どんな鳥がいるのか、にわかバードウォッチャー気取りである。アカショウビンに似た、胸から腹部、尾部まで深紅の鳥がせわしなく枝を行き来している。その大木の横にはこれまた大きなサボテンがあり、そちらを覗くと、これは間違いなくハチドリが小さな花から花へと飛び回っていた。その他にも数種の小鳥を見つけ、意外に鳥の多いことに驚いた。



朝の冷気が快く身体にしみ渡り、山肌を登ってくるかすかな風が頬を撫でた。気がつくとも東の山並みが赤く染まり、やがて日の出。もう一本煙草を吸い、持参のお茶を飲んでから腰を上げた。そこからは予想通りの岩肌を縫っての登りだったが、思ったほどではなく、あっけなく通過する。そしてほどなくア

ンテナ塔の林立する山頂に着いた。

山頂には、駆け上ってきたらしい若い夫婦と二十歳前と思しき二人連れが、眼下を見下ろしながら何か喋っていた。教会を見上げる。外見は荘厳さとは程遠く、コンクリートがむき出しのまま打ってあるだけである。その時気づいた。東西に延びた前線とでもいうのだろうか、山頂上空で空の様相がはっきりと区切られている。南側には雲が広がり、北側は快晴で雲ひとつない。寒気と暖気がそこで前線を形成しているのでは、と思った。まるで山頂が天を真二つに裂いているようで、首が痛くなるまでしばらく見入っていた。

レオン市の北東にある大きな貯水池上空は、うっすらと朝靄に包まれ、逆光に湖面が輝いている。南側のレオン市の街並みは、まだ週末の喧騒の疲れに眠ったままのようだった。西の低い丘には新たな住宅地が開発されており、朝日にくっきりと区割りが見えた。

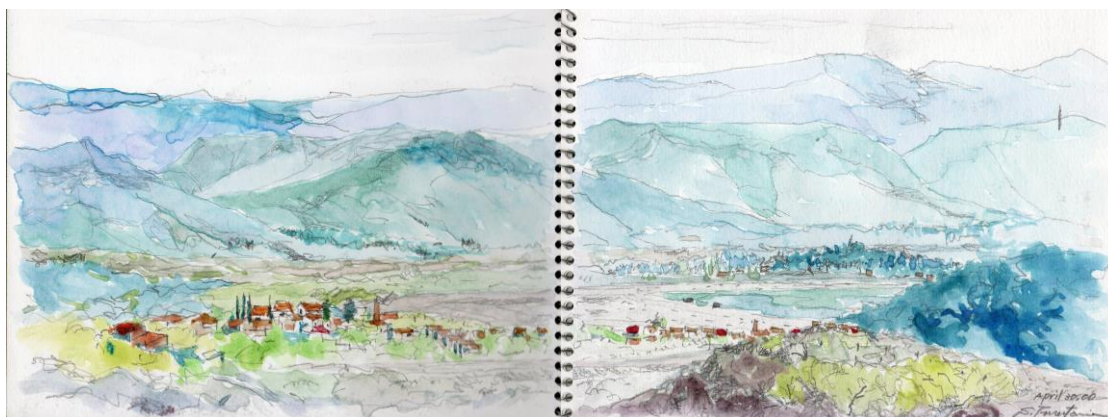


礼拝堂に入ってみた。正面高くに幼子イエスを抱いたマリア像。その横顔をステンドグラスを抜けてくる七色の光が照らしている。ステンドグラスの効果というものを初めて目の当たりにした。誰もいないのを幸いに、悪い癖でついシャッターを押す。そして、異教

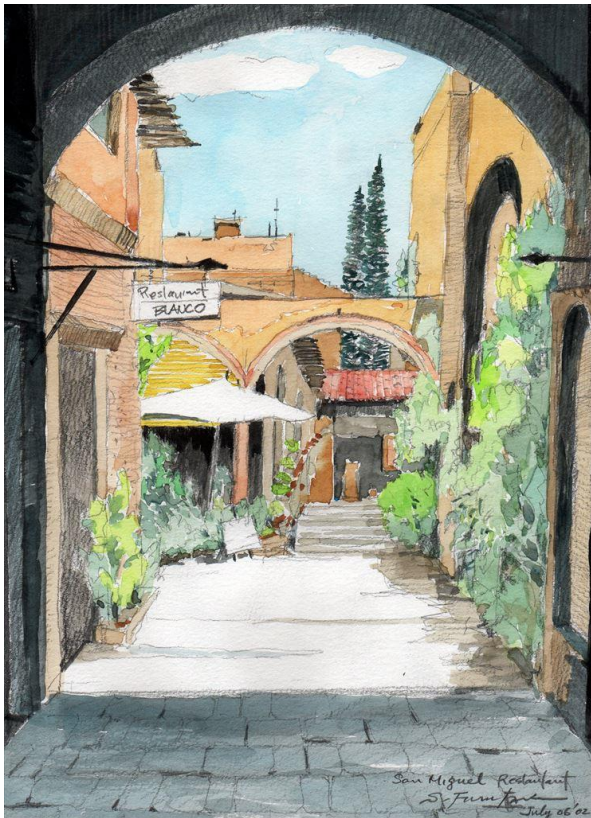
徒ながらもいつも感じてしまう教会の不思議な清浄感に気圧されて、静かに椅子に座り家族のことを思った。イエスに祈るのではなく、マリアに祈るのではなく、ただ素直に家族の幸せを願ってしばらく瞑目したが、背後に先ほどの若夫婦らしい声を聞いて、何か悪いことでもしたかのように礼拝堂を出た。

山頂を後にしたのは、8時半前。もう一つの鞍部から下山した。そこには送水管が通っていて、もっと急だったが、きっちりとした道があった。レオン市を眼下に見ながら、そこを一気に下ると、あっけなく緩やかな斜面に出た。その辺りはもう所々に灌木が見られる程度で、むしろ草原というべきだろうか。踏み跡は意外にはっきりとしていたから、こちらの方が正式な直登ルートなのかもしれない。

突然、目の前の草藪でガサゴソと音がした。何かと思えば野ウサギだった。ウサギは一瞬両耳をピンと立てたかと思うと、それこそ脱兎のごとく、さらに深い草藪に消えた。見えたのは長い両耳とお尻だけ。この山は別名「サソリ山」とも呼ばれており、この麓の家々では結構サソリが出没して住民を悩ませているのだが、十分注意していても、結局サソリは一匹も見なかった。その代わりにたくさんの小鳥とウサギまで見たのだから、予想外に色々な動物が住み着いているのかも知れない。今回、そのことを発見できたのは大きな収穫だった。帰宅して熱い風呂を浴び、珍しく朝からご飯を炊いて味噌汁を作り、これに目玉焼き、焼き海苔に魚の味醂干という純正統派「正しい日本の朝ご飯」をいただいた。ほどよい運動でハラペコ、それに喉も渴いていたから、ついビール付きの朝ご飯となってしまった。

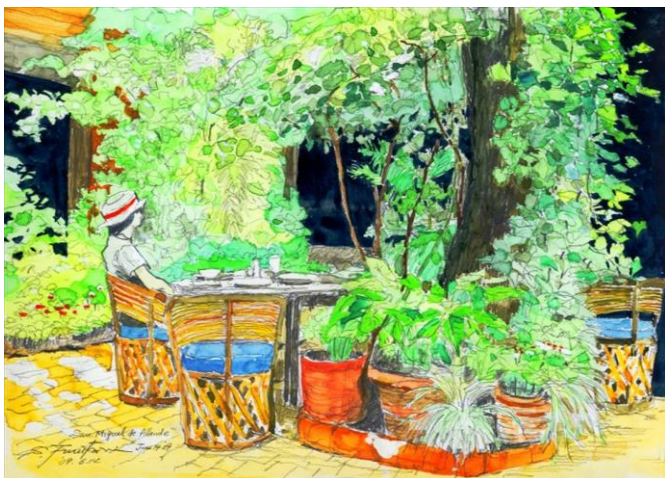


(山頂から見下ろした風景をスケッチ。街の東側は山に囲まれている。)



右は、時々チャーターして遊んでいたセスナ150から撮影したレオン市の北部。中ほど右隅の高い建物が住んでいた11階建のマンション。左手の広いエリアはショッピングモール「プラザマイヨール」。下側の緑地は市内一のゴルフクラブ「クラブ・カンペストレ」の端っこで、サソリ山はこの写真の右手にある。

私の住んでいたマンションには、ベッドルームが三つ、シャワールームが二つ、20畳はあるリビングにだだっ広いキッチン、さらにはメイドさん用のスペースもあった。そんなところに一人で住んでいたのだが、それは贅沢のためではなく、主として治安の問題からだった。このマンションには2名の警備員が24時間常駐していた。ただし、メキシコの中でもレオンは治安が比較的安定していて、3年半の滞在中、怖い思いをしたのは、住居の一角にあるコンビニでピストルによる殺人事件が発生したのが唯一だった。



上左側のスケッチは、サンミゲール・アジェンデという町に泊まった時描いたもの。メキシコ在住の日本人の勧めでプチホテルに泊まったのだが、気の良いオーナーマダムが対応してくれて、一人旅だったが、実にのんびりできた旅となった。左のスケッチは、そのホテルの中庭を描いたものである。

(2011.4.5記)